

第110号  
平成21年

6月25日

# すまいるたうん



発行元  
東京新聞  
南千住専売所  
TEL3803-1781  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL090-2657-0300

## 三ノ輪の語り部 (1911年生まれ) 小林マツさんの記憶 I

「震災も空襲も縁がなかったのは、  
三ノ輪と神田佐久間町でした」

現在、南千住1丁目の最長寿の方97歳  
はお二人(女性)おります。明治44年11  
月生まれの小林マツさんは、その一人で  
す。この年に生まれた有名人は、レーガ  
ン米大統領・岡本太郎・藤山一郎・鈴木  
善幸(首相)・メイ牛山(美容家)がい  
ます。小林さんの記憶の紐をほどこして  
いただき、お話を伺いました。

父が、新潟県長岡の親戚の石油採掘事  
業の保証人になり、失敗して差し押さえ  
を受け家を処分して家族8人で上京して  
三ノ輪に来ました。当時の家賃は5円50  
銭でした。「東京でうまくいかなかった  
ら帰っておいで」と親戚の叔母さんが母  
に5円を渡していたので、片道の運賃が  
その位だったのではと思います。母をそ  
れを肌身離さずを持っておりました。

住所は「北豊島郡三ノ輪上町286番7号」  
でした。三ノ輪と呼ばれる地名が下谷区  
三ノ輪町(台東区)もありました。この  
商店街は三ノ輪上町286番で1から10まで  
号を分けたのではないかと思います。現  
在、ジョイフル三ノ輪商店街は1班2班

と班ごとに分かれて行事を行っています  
が、その名残だと思っています。

「馬の子が連れて行かれたみたいだ」  
子供がぞろぞろと引越して来たことを  
屠殺場に向かう家畜が家の前の道を往来  
していたのになぞらえて、近所の人が笑っ  
て言っていたのを覚えています。

父は、皮屋に勤めに行き、母は、お惣  
菜屋さんからはじめ、次第にどじょうを  
扱い「小林どじょう」と呼ばれてまし  
どじょうは、棒秤の先にざるをつ  
けて秤売りしていました。

「天秤棒を担いで水汲みが大変だっ  
た」

当時、三ノ輪の商店街の通りの裏のあ  
ちこち井戸がありました。どじょうの管  
理には水が大量にいるため、手押しポン  
プで汲み上げた水一斗(約18リットル)を天秤  
棒の両端につけたバケツに入れて路地を  
かに歩きして運んでました。遊びもした  
のですが、家の手伝いをしていたことの  
ほうが鮮明に記憶に残っています。

大正15年(1926)には水道を引いたので  
楽になりました。近くで火事があったと  
きに、この水道を使って消火したので、  
ブリキより高級な赤の洗面器をいただき  
ました。

瑞光公園の通りを挟んで三ノ輪座があ  
りました相州屋さんの向かいの靴屋さん



から化粧品屋の名久井さんのまで幅があ  
り、公園を分断する通りまでの大きい映  
画館でした。田中絹代や栗島すみ子、日  
本映画界最初のスターである尾上松の助  
のチャンバラ映画を見ました。無声映画  
だったのでスクリーンの脇に活動弁士  
(活弁)上映中の映画の進行に合わせて、  
その内容を解説していました。夜遅くま  
でやっていたので、各商店は朝起きると  
同時に店を開け、映画館がはねる(終了)  
10時位まで店を開けていたと思います。  
トイレは汲み取り式でかめに排泄物を  
溜め、柄杓でいっぱいくらいと値段を取っ  
ていました。汲み取り券を売っている店  
もあったと思います。水はあまり浸から  
なかったのですが、便器にふたをして重  
しを乗せて上から水が入らないようにし  
てました。水洗にしたのは、昭和25年で  
す。

小林さんは、朝7時には、独自の背筋  
・腹筋を鍛える体操をして、お天気が良  
い日には、2時間かけて若宮神社や素盞  
雄神社にシルバーカーを押しながら散歩  
にでかけています。お話は書ききれない  
程、豊富です。瑞光尋常高等小学校(現  
在の瑞光小)の最初の卒業生で大正13年  
の卒業写真に羽織袴で写っております。

また、掲載致します。

お楽しみに

